

日本学術会議における大型研究計画のとりくみと，地球惑星科学のありかた Concept on big scientific projects by SCJ and the Earth and planetary science community

永原 裕子^{1*}
Hiroko Nagahara^{1*}

¹ 永原 裕子
¹Hiroko Nagahara

日本学術会議の大型施設計画・大規模研究計画（以下，大型研究）マスタープランは，日本における学術コミュニティの在り方そのものに大きな影響をあたえてきた．地球惑星科学は物理学と並び，大型研究を多くかかえるコミュニティであり，この問題に真剣に取り組む必要がある．他方，地球惑星科学の大型研究の多くが，国策としての計画であり，純粋にボトムアップとは限らない．そのことは，地球惑星科学の計画への評価に影響していると考えられる．また，従来多くの個別の学会などにより進められてきた研究計画を，より広いコミュニティの合意にする必要にせまられており，われわれは，このコミュニティの在り方を議論することが求められている．

本講演においては，学術会議の大型研究マスタープラン 2014 作成への考え方・方針を照会するとともに，地球惑星科学コミュニティのあるべき姿を提案する．

キーワード: 学術会議, 大型研究計画, 地球惑星科学

Keywords: Science council Japan, big projects, Earth and planetary science